

おちんちんの は・な・し

岩室 紳也

性はある程度語れるんだけど、男の子の性はよくわからないよね。先生は泌尿器科医だから話せるでしょ」と頼まれました。パワーポイントなどもない時代だったので、配布資料をつくり、やっと使えるようになったワープロで何ページにもわたる講演原稿を書いてみました。



「おちんちん」が言えない

を讀み返し
てみると、
これでは受
けられない

「包茎というのは、思春期男子の大きな悩みです。包茎とは龜頭部を包皮が覆った状態を言

講者は「わかくんなくい」だろうなと気づかされました。

い、包皮を翻転（はんでん）することが出来ないのを真性包

茎。包皮を翻転し龜頭部が露出できるようになるのが仮性包

茎」と医学用語を羅列した原稿

おちんちんがっています。生まれた時はほとんどのお子さんのおちんちんは先っぽまで皮に

覆われています。これを包茎といいます。『ミミズにシヨンパンをかけるとおちんちんが腫れる』というの聞いたことがありませんよね。これは迷信ではなく本当なのです。ちゃんと洗って洗えばおちんちんが腫れるのを予防できます。息子さんに『おちんちんはちゃんとして洗うんだよ』と話してください」と話をしたところ、「へ〜。知らなかった。帰ったら息子に教えよう」といったいい反応をいただきました。

お母さんたちは私がおちんちんという言葉を口にしても、恥ずかしくがることなく、むしろ真剣に話に聞き入ってくれています。「おちんちん」と言うのが恥ずかしいと考えていた自分自身がむしろ恥ずかしくなりませんでした。

（地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長）

（金曜掲載）

講演で、男性とおぼしき人に「あなたは男ですか、それとも女ですか」と投げかけると、げんそうな顔で「男です」という答えが返ってきます。次に「どつて自分は『男』だと言えますか」と聞くと、ほとんどの方が「おちんちんがついているから」と答えられません。なぜでしょうか。

こう書きながら、私が初めて母親向けの性教育なるものをさせていた20年以上前の記憶がよみがえってきました。岩室先生。私は女だから女の子の

おちんちんの は・な・し

岩室 紳也

皆さんはおちんちんの構造をちゃんと理解していますか。男の子が生まれた時のおちんちんは先端にある亀頭部が皮（包皮）に覆われた、いわゆる「包皮」の状態になっています。もちろん大人になっても包皮の状態のままの人がいます。こういったても女性にはわからないですよ。

では、とっくり型のセーターをかぶるようになって自分の姿を思い浮かべてください。まだ、頭がセーターの穴から抜けていない状態を「包皮」といい

ます。包皮のままはっておくと、頭（亀頭部）を洗うことができません。そしてセーターの内側（包皮内板）と頭（亀頭部）から出る垢（あか）が包皮の中に入ったたり、セーターの入り口から細菌や汚れが入ったりして不潔になり、膿（うみ）がたまると亀頭包皮灸という状態にな



ミミズにおしっこを…

落ちていた木の枝で土の中からミミズ

ることがあります。亀頭包皮灸になると抗生物質を服用し、すごく痛い思いをして包皮をむいてたまった膿を出す必要があります。

子どもがミミズにおしっこをかける状況を科学的に実況中継すると、次のようになります。

んの先っぽを触っておしっこが飛ぶ方向を修正し、めでたくミミズにおしっこをかけました。ところが、その際に包皮の中に細菌が入ったにもかかわらずお風呂に入ってもおちんちんの表面を洗っただけでした。包皮の中に入り込んだ細菌はその後繁殖し、数日後に亀頭包皮灸になって泌尿器科に飛び込むことになりました。

この男の子がミミズにおしっこをかける際に、ちゃんと包皮をむいて、おしっこの出口である尿道口を出した状態でミミズの方向に狙いを定めていれば、1回でミミズに命中していただはずです。たとえその時に包皮の中に細菌が入ったとしても、お風呂で包皮をむいて洗っていただければ亀頭包皮灸は予防できただはずです。

ミズをほじくり出した男の子がおちんちんを持って、狙いを定めてミミズをめがけて放尿します。しかし、おちんちんをミミズの方向に向けたつもりでも、包皮が邪魔をして尿が狙った方向に飛びません。そこで、木の枝を触って汚れた手でおちんち

（地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長）
（金曜掲載）

おちんちんの は・な・し

岩室 紳也

包茎という状態を放置すれば不潔だけでなく、そこにHPV（ヒトパピローマウイルス）が住み着き、むかないままの状態が長く続くと陰茎がんの原因になります。同じウイルスが女性の子宮頸がんの原因になることは今や医学界の常識です。

子どもの包茎について学会で議論した際に、医学的に清潔か否かが問題になるかと思いきや、ある先生が「包茎はみっともないですよ」という趣旨の発言をされました。私が「毎日むき続けられ狭かった包皮口は広が

り、少しの痛みを伴いますが、包皮内板と亀頭部を一回りずつはがしていけば必ずむけるようになります」ということを具体的なデータで示したにもかかわらず「何回も外来に来るのはトラウマにもなるかもしれないので一気に手術をした方がいい」という意見も出されました。

子どもの包茎はどうする？

泌尿器科の専門誌が行ったアンケート調査では、「子どもの包茎に時間をかけていられない」という意見が多数派を占め、むき続けることで清潔を保ちまじょうという私の主張は、どちらかというと少数派のよう



でも、よく考えると、そもそも包茎をどう扱うかを医者にゆだねることが間違っていたと気付かされました。昔は遊び仲間、あるいは銭湯で、おとなにむくことを教わったはずなのに、医者で薬をもらいながらむくのは変ですよ。ね。むくべき

か、むかざるべきかは医学的な問題というよりは、日常生活の問題です。お母さんたちに「むいた方がいいですか」と聞かれた時の私の答えは決まって「むかなくても今のところ死にません」です。

でも、思い立ったら吉日と思っ

てやってみましょう。むいた時の亀頭部のひりひり感は繰り返して触っているうちに必ず慣れます。包皮と亀頭部の癒着をむかれた時の激痛も、亀頭部を刺激しても平気な状態になってからむけば痛みは少なくてすみます。亀頭部が全部出た時の達成感はその子の自信になります。

最終的にはむいた本人がむいたことを通して我慢を覚え、頑張り通せたことを誇りに思えるまで支え続けることが、おとなの責任ではないでしょうか。

(地域医療振興協会ヘルスプロ
モーション研究センター長)

(金曜掲載)

おちんちんの は・な・し

岩室 紳也

そもそも生まれた時はほとんどの人が包茎です。大人になった時に包茎ではない状態、すなわち亀頭部が常に露出している状態になる人は男性の3人に1人です。しかし、温泉や銭湯の男湯の中では、包茎の方はそれとなく隠し、包茎ではない方はそれとなく見せるという情景が繰り返されています。

どうして包茎のままの人と、包茎ではない状態になる人の違いがあるのかはわかっていませんが、少なくとも亀頭部が常に露出していない人でも、むい

て、洗って、スムーズに包皮を戻せるのであればまったく問題はありません。しかし、「包茎」をインターネットで検索すると想像を絶する件数がヒットします。トップでヒットするのはほとんどが手術を勧めるサイトですし、実際に手術を受けている人が少なくありません。

持ち物より持ち主が大事

男はプライドの生き物といわれていますが、包茎が多い日本では包茎ではないことがプライドを下支えしてくれるの

でしょうか。金子みすゞさんの詩の中に「みんなちがって、みんないい」というフレーズがあります。「持ち物より持ち主が



大事」と教えてくれたのは私の妻です。女性は多様性を受け入れてくれているのに、虚勢を張りがっているのは男性の方でしょうか。

私のおちんちん外来に「息子のおちんちんは小さくないですか」「大きくする方法はあるのでしょうか」と相談に来る親が

少なくありません。「何歳で何センチ以上あれば正常と言えるのでしょうか」と聞かれることもあります。標準を外れていたらかわいそう。できることがあればしてあげたい気持ちかわからないでもないのですが、この気持ちの背景には一定範囲に入っていることで安心し、逆に一定範囲からはみ出ている人を排除する気持ちの表れにも思えます。成人で勃起した時に5センチあれば十分です。

持ち物より持ち主が大事。みんなちがって、みんないい。清潔でさえあればどのようなおちんちんであってもいいんだよ、とお互いを認め合う社会の大切さを、たかがおちんちん、されどおちんちんが教えてくれているのかも知れません。

(地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長)

(おわり)